

CASE STUDY

イードが事業継続性の強化とランサムウェアに対する脅威防御の強化のためにCohesityを採用

お客様企業情報

iid 株式会社イード

商号：株式会社イード(IID, Inc.)
売上高：4,399百万円(2017年6月期)
資本金：876,628千円(2021年9月末日現在)
設立：2000年4月28日
従業員：連結 237名 ※2021年9月末日現在(アルバイト含む)
住所：東京都中野区本町一丁目32番2号
ハーモニータワー17階
URL：<https://www.iid.co.jp/>

事業概要：
マーケティングリサーチをベースとしたデザインマネジメントコンサルティング会社の旧イードと、WEBメディア開発運営会社の旧IRI-CTが合併して生まれた、コンテンツマーケティングカンパニーです。「We are the User Experience Company.」という考えのもと、インターネットを活用した企業のマーケティング支援事業を軸に、全てのステークホルダーにとって最高のUXを提供できるよう挑戦し続けています。

メディア事業、リサーチ事業、メディアコマース事業を3本柱とするビジネスを展開している株式会社イード(以下、イード)は、老朽化したバックアップシステムがサポート終了を迎えるのを機に、データ保護の体制を全面的に刷新した。バックアップに要していた時間を大幅に短縮して頻度を向上するとともに、パブリッククラウドへの同時バックアップを行うことでBCP(業務継続計画)対策を強化。さらに昨今の深刻な脅威となっているランサムウェアからも重要データを保護するセキュリティ対策を実装した。

イード
管理本部
情報システム部
稲澤将紀 様



イード
管理本部
副本部長
永島伸幸 様



老朽化したバックアップシステムで発生していた数々の課題

マーケティングリサーチをベースとしたデザインマネジメントコンサルティング会社の旧イードと、WEBメディア開発運営会社の旧IRI-CTが合併して生まれたコンテンツマーケティングカンパニーのイード。「すべての人に最高のユーザーエクスペリエンスを！」というビジョンを掲げ、人々のニーズに寄り添った「メディア事業」、定量・定性・海外調査など幅広いリサーチ・コンサルメニューによってマーケティング課題解決を支援する「リサーチ事業」、EC事業者向けにショップ運営ASPシステムを提供する「メディアコマース事業」を3つの柱とするビジネスを展開している。

なかでも特に注目すべきがメディア事業だ。IT、自動車、教育、映画、ゲーム、アニメなど各分野に特化した21ジャンルにまたがる約70サイトメディア・サービスを運営し、月間5000本以上の記事を配信し、総閲覧数は月間1億8000万ページビューに上る。

イード 管理本部 副本部長の永島伸幸氏は、「現在の売上のうち大きな割合を占めているのは広告ですが、『360度のビジネスモデル』を標榜するなかで、オンラインのセミナーやイベント、コンサルティング、サブスクリプション型サービスへも注力しています」と語り、積極的なビジネスの多角化を図っている。

こうしたビジネスの拡大・成長に伴い、基幹系アプリケーション

サーバやファイルサーバで保持・管理するデータもどんどん増大していく。イード 管理本部 情報システム部の稲澤将紀氏は、「数百台におよぶ仮想サーバ上で運用しているこれらの社内システムのデータの総容量は、かなり大きな容量になっています」と語る。当然のことながらこれらのデータは、事業運営に欠かせない最重要の経営資源にはかならない。

しかしイードではこれらのデータを保護し、事業継続性を担保する上で大きな課題を抱えていた。7年以上前に導入したバックアップシステムが老朽化し、アップデートもままならない状態となっていたのだ。

「最大の問題は差分バックアップの機能がうまく働かなくなっていたことです。このため毎回フルバックアップを行わなければならないが長時間化しており、最近ではジョブが完了するまでに2～3日を要していました。また管理コンソールのUIも設計が古く、あまり使い勝手がよくありませんでした。そんな事情もあって一部のデータについてはWindowsの標準機能を併用して手動でバックアップを行っており、オペレーションがますます煩雑化している状況にありました」と稲澤氏は振り返る。

データ保護体制の全面刷新に向けて策定した要件

そこで2021年6月、イードは老朽化した現行のバックアップシステムがサポート終了を迎えることを機に、データ保護の体制を全面的に刷新すべく検討を開始した。そうした中で新たなバックアップシステムに求めたのは、次のような要件である。まずはバックアップにかかる時間の短縮だ。

「データ保護の観点からは、最低限としてバックアップを日次の頻度で行えるようにしなければなりません。また各サーバに与えている負荷を軽減するためにもバックアップジョブを短時間で終わらせることが急務となっていました」(稲澤氏)

次に事業継続性の強化である。イードがこれまで実施していたのは同じデータセンター内の筐体間のバックアップであり、激甚災害などでデータセンター自体が損壊した場合にはデータが失われてしまい、ひいては事業継続ができなくなってしまう。そこでイードが打ち出したのが、「重要データをパブリッククラウドなど外部環境にもバックアップ/アーカイブを行って保護する」という新たな運用方針だ。

さらに事業継続性の観点から、もうひとつの大きなテーマとして掲げたのがランサムウェア対策である。周知のとおりランサムウェアとは、サーバや端末などに保存されているデータを暗号化して使用できない状態にした上で、そのデータを復号する対価として身代金を要求するサイバー攻撃だ。従来は不特定

多数の利用者を狙って電子メールでマルウェアを送信するといった手口が一般的だったが、近年では特定の企業や団体を標的として攻撃を仕掛けるものが主流となるなど手口は巧妙化・悪質化していく一方だ。日本企業も決して例外ではなく、ある大手製造業も標的型ランサムウェアの攻撃を受け、国内外の多くの製造拠点の操業停止を余儀なくされるなど多大な被害が発生している。

「弊社はまだランサムウェア攻撃を受けたことはありませんが、だからといって今後も安全である保証はまったくなく、被害は他人事ではありません。したがってランサムウェアに侵入された事態を平時のうちから想定しておき、先手を打った対策として社内システムの運用基盤から完全に切り離された場所にデータ保護し、迅速に復旧できるようにしておく必要があります」(稲澤氏)

加えてイードがこだわったのが、管理コンソールのモダンなUI/UXである。従来のバックアップシステムの管理コンソールは操作が複雑で、ある程度スキルの習得が必要だったことから扱えるメンバーも限られていた。「そこで誰でも直感的に操作できるブラウザベースの管理コンソールを備えたシステムにリプレースすることで、バックアップ運用の属人化を解消したいと考えました」(稲澤氏)

Hyper-V版「Cohesity DataProtect」の導入を決定

前述のような要件に基づき、イードはさまざまなベンダのバックアップシステムの調査および比較検討を行ってきた。そうした過程を経て選定したのが、テクマトリックスから提案された「Cohesity DataProtect」である。データ管理の多彩なソリューションを包括した次世代データ管理プラットフォーム「Cohesity」のバックアップソリューションライセンスとして提供されているものだ。ハードウェアアプライアンスのほか主要な仮想化ハイパーバイザに対応しているのが特徴で、

イードではMicrosoft Hyper-Vベースの仮想マシン上で運用する形をとっている。

「テクマトリックスには以前にもセキュリティソリューションの導入などでお世話になった経緯があり、その高い技術力には厚い信頼がありました。今回のCohesity DataProtectに関しても製品選定時の要件定義から各機能の事前検証、システム構築にいたるまで、全面的なサポートをいただいています」(永島氏)

バックアップに要する時間を数日から2時間に短縮

こうして正式導入され2021年10月に本番稼働を開始したCohesity DataProtectが、具体的にどんな形で課題を解決したのか見てみよう。

1つ目の「バックアップ時間の短縮」について、まず大きな効果を発揮したのが永久増分バックアップの機能である。初回こそフルバックアップが必要だが、2回目以降は増分データのみをバックアップですむため所要時間が大幅に短縮される。さらに取得された各世代は、フルバックアップイメージで管理しているため、定期的な合成フルバックアップが不要となっているのも特徴になっている。この上に相乗的な効果をもたらしているのがインラインの可変長ブロックによるグローバル重複排除および圧縮の機能で、データ容量をほぼ半分に削減した。

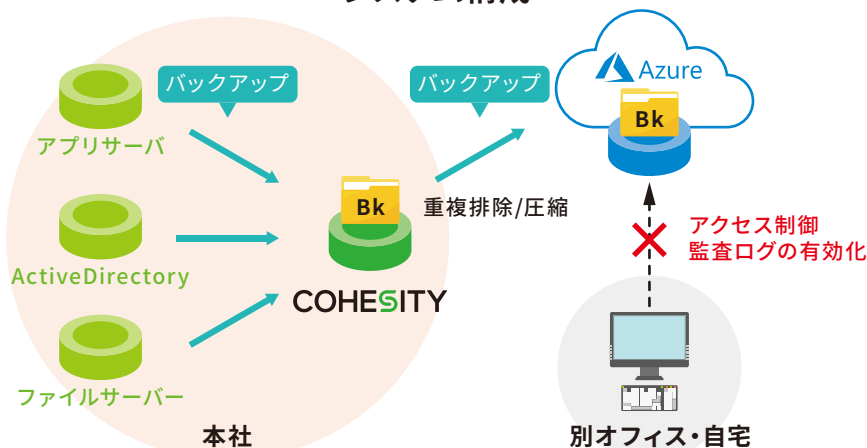
「これにより従前は2～3日を要していたバックアップ時間は、わずか2時間程度にまで短縮されています。日次またはそれ以上の頻度で、必要なバックアップを取ることが可能となりました」(稲澤氏)

なお、バックアップに2～3日を要していた頃は、ジョブが途中で異常終了していないかどうか進捗状況を頻繁に確認する必要があったが、大幅に時間短縮されたことに伴いそうした手間もなくなった。「おかげでコロナ禍の中でも、リモートワークの環境からも安心してバックアップジョブを実行できるようになりました」(稲澤氏)

2つ目の「事業継続性の強化」については、オンプレミス内でのバックアップと同じタイミングでパブリッククラウド(Microsoft Azure)に向けてもバックアップを行うことにした。前述した永久増分バックアップやインラインの重複排除・圧縮に加えて、ここで大きな貢献を果たしたのが帯域制御の機能である。

「インターネット回線を経由してバックアップデータをクラウドにアップロードすることに関して、当初はWebアクセスやSaaSを利用している他の業務に支障をきたすことを懸念していたのですが、実際にはまったく問題ありませんでした。Cohesity DataProtectの帯域制御により、他の業務の通信を圧迫することなくバックアップデータを転送することが可能なのです。しかもバックアップデータは暗号化された状態でセキュアに転送されるため情報漏えいの心配もありません」と稲澤氏は語る。そして「テクマトリックスはこうした帯域制御の導入効果とともに、Microsoft Azureの費用感まで含めた詳細なシミュレーション結果を事前に提示してくれました。これによって私たちは迷うことなく、スムーズにクラウドバックアップに踏み出すことができました」と強調する。

システム構成



独自のAIモデルでランサムウェアからもデータを保護

3つ目の「ランサムウェア対策」についてもCohesity DataProtectは、ランサムウェア攻撃に対する“最後の砦”となるバックアップを実現するための効果的なソリューションを標準機能として提供している。

ランサムウェアの攻撃では、通常、プライマリデータやセカンダリデータが暗号化され、それらにアクセスすることができなくなる。Cohesity DataProtectは、AIと機械学習機能の搭載で、データのあらゆる変化を検知することで、バックアップコピーへの感染を防ぎ、データのクリーンコピーを迅速に復旧することを可能にする。さらに、このプラットフォームは、一度書き込まれたデータのあらゆる変更を防止するイミュータビリティ（変更不可）機能を備えているため、ランサムウェア攻撃でデータが変更されたり、暗号化されたりするのを防ぐことができる。

「ランサムウェアを含むサイバー攻撃への対策はどこまでやっても100%の完璧はありませんが、確かなレベルアップを図れたことは間違いありません」(稲澤氏)

そして4つ目の「モダンなUI/UXの導入」についても、Cohesity DataProtectの管理コンソールは十分に満足できるものだった。

「これまで手動で実行していたものも含めてすべてのバックアップジョブをCohesity DataProtectの管理コンソールに統合し、自動化することができました。その後のバックアップジョブの進捗状況もグラフィカルなダッシュボード上で直感的に確認し、必要な操作を簡単に実行することができます。この結果、現在では情報システム部内のスタッフの誰もがバックアップ運用にあたるようになりました」(稲澤氏)

社外向けサービスのデータについてもバックアップの在り方を検討

Cohesity DataProtectの導入により、イードにおけるデータバックアップは大きく改善された。しかし業務継続性を強化する観点ではまだ道半ばであるのも事実だ。

「基幹システムやファイルサーバなどデータセンタ内で運用しているデータの保護についてはある程度めどが立ちましたが、それだけで業務継続性が担保されるわけではありません。特にコロナ禍以降は弊社でも多くの社員がリモートワークに移行しており、これに伴って社外に分散したエンドポイントに保持されているデータを一括して保護する仕組みを整備する必要があります」(稲澤氏)

さらにその先の大きな課題として控えているのが、メディア事業で運用している記事コンテンツをはじめ社外のユーザに向けて公開しているデータの保護である。

「各メディアの運営部門とも協議しつつ、全社的な観点からいかなるバックアップを実現すべきか検討を進めています」(永島氏)

イードは引き続きテクマトリックスと緊密に連携しながら、ビジネスの成長を支えるデータ保護の最適解を追い求めていく構えだ。

USER COMMENTS

「テクマトリックスには以前にもセキュリティソリューションの導入などでお世話になった経緯があり、その高い技術力には厚い信頼がありました。今回のCohesity DataProtectに関しても製品選定時の要件定義から各機能の事前検証、システム構築にいたるまで、全面的なサポートをいただいています」(永島氏)

「Cohesity DataProtectにリプレースしたことで、従前は2~3日を要していたバックアップ時間は、わずか2時間程度にまで短縮されています。これにより日次またはそれ以上の頻度で、必要なバックアップを取ることが可能となりました」(稲澤氏)



テクマトリックス
第一営業部
森田晃 氏

イード
管理本部
副本部長
永島伸幸 様

イード
管理本部
情報システム部
稲澤将紀 様



テクマトリックス株式会社 第一営業部

☎ 03-4405-7816

✉ storage-sales@techmatrix.co.jp

🌐 <http://www.techmatrix.co.jp/product/network.html>

※ 記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。 ※ 記載製品の仕様は予告なしに変更される場合があります。 ※ 記載の内容は2022年1月現在のものです。

